



(別紙3)

教文起第656号-1

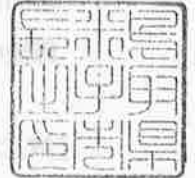
平成28年7月29日

(施設名) 米子市公会堂

(指定管理者) 一般財団法人 米子市文化財団

(代表者名) 理事長 杉原 弘一郎 様

米子市長 野坂 康夫



平成27年度「米子市公会堂」指定管理者業務評価書

施設名	米子市公会堂
施設所管課	米子市教育委員会事務局文化課
指定管理者名	(一財) 米子市文化財団
指定期間	平成23年4月1日 ~ 平成28年3月31日 (5年目)

【モニタリング終了後の総評】

【施設所管課】

前庭やホワイエの単独利用を含めた施設の利用促進に努め、利用件数及び利用者数が増加したことは評価できる。また、小規模な修繕を職員で迅速に行うなど施設の維持管理も適切に行われている。

【第三者評価】

- ・大ホールのみでなく、前庭やホワイエを活用した事業展開がみられるなど、今後が楽しみである。
- ・建物のみならず前庭の芝生等も大きな資源だと思う。米子市のシンボルの場となるよう前庭の一層の利用促進に努めてほしい。
- ・歴史ある施設として大事にすることも大切だが、機能面で劣る部分があれば改善すべきだと思う。例えば、リハーサル室(3階)については、文化ホール(管理棟2階)の方が狭いが音響面では使いやすい。
- ・平素から災害に対する意識が高く、マニュアル等の作成に努めている。
- ・利用者数が増加したことは利用促進の取組みの成果である。
- ・大改修後の施設管理にはいろいろと気を使っておられることと思う。芝生の手入れ作業をよく見かけるが、それに限らず継続的に成果のある維持管理をお願いしたい。
- ・職員数が少ない中で、自主的な事業への積極的な取組みがみられた。

- ・ホワイエの活用が拡大され、スペースが有効活用されている。

#### 【今後の業務改善方策等の特記事項】

##### 【施設所管課】

引き続き適切な施設管理に努め、多くの市民が利用できる環境を整えるとともに、ホールの客席数や音響特性、ホワイエや前庭の利活用方法などについてのPR活動を継続し、施設の特性をいかしたイベント等の誘致活動に努めること。

##### 【第三者評価】

- ・適切な駐車場の確保が一番の課題と思われる。
- ・市民の憩いの場となるような取組みを進めることで、中心市街地活性化の一助となることを願う。
- ・利用促進の試みとして、実施した事業の報告（市報に活動の様子を載せる等）をするなど、事後の取組みも強化すると良い。現在も行っていると思うがなかなか伝わってこない。
- ・開館時間を天候によって早める配慮があってもよいと思うので検討してほしい。（雨天時に開館まで外で待っている場合など）
- ・評価項目の特記事項の内容について、3ホールとも同じ評価をしている項目が多すぎるが、各ホールの良い面・悪い面を表に出し、改善を図っていくことが必要だと思う。

## 平成27年度下期「米子市公会堂」モニタリング評価表 [平成28年6月]

施設名	米子市公会堂	
施設所管課	教育委員会事務局文化課	
指定管理者名	団体名	(一財)米子市文化財団
	所在地	米子市角盤町2丁目61番地
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	
選定方法	公募・非公募	
施設の設置目的	市政30周年記念事業として昭和33年に建設された米子市公会堂は、芸術文化の振興及び市民福祉の増進を図ることを目的としている。	
主な実施事業	鑑賞事業（優れた舞台芸術の鑑賞機会の提供）年間3回程度 参加型事業（多数の市民が参加できる芸術文化の発表の機会提供）年間3回程度 教育普及事業（芸術文化に関する普及活動、情報提供）年間3回程度	

評価項目	評価基準	評価	特記事項
<b>I 履行の確認（60点）</b>			
1 施設全般の管理運営に関する業務			
(1)管理体制	施設の管理体制が明確になっており、基準に基づいた適切な人員配置がされているか 安全対策、危機管理体制などが十分に講じられているか	B	現地確認 人員配置は計画通りであり、災害マニュアル等を作成している。
(2)職員研修	職員の業務に必要な資質・能力の向上を図るための研修・教育が適切に行われたか	B	資料確認 適宜研修が実施されている。
(3)利用促進業務	利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか	A	資料確認 ポスター、チラシの配布、報道機関への情報提供等、適宜行われている。
2 利用者に関する業務			
(1)利用状況	利用者数・稼働率等は適切な水準であるか <b>補足資料※1</b>	A	資料確認 昨年の水準を大幅に超えているため。
(2)利用者の要望把握等	利用者の要望の把握及びその実現策は適切に行われているか	B	資料確認 自主事業についてはアンケート用紙が配布され、要望等の実現策を検討していた。
3 保守点検並びに清掃等の業務			
(1)保守点検業務	基準に基づき、保守点検が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料確認 適切に行われている。
(2)清掃・維持業務	基準に基づき、清掃業務・維持管理が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料確認 適切に行われている。
(3)保安・警備業務	基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料確認 適切に行われている。
(4)修繕業務	基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか	A	資料確認

	第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か		絞り縦帳の破れ等小規模な修繕を職員で対応しているため。
4 自主事業の実施に関する業務	事業計画書に沿った自主事業が適切に行われたか	B	資料確認・現地確認 事業計画書通り事業が実施されている。
5 情報公開・個人情報に係る措置	情報公開・個人情報保護に係る措置は適切に行われたか	B	資料確認 適切に行われている。
6 管理目標	施設の現状を正しく認識し、今後の在り方についての提案は具体化されているか	A	現地確認 大ホールだけでなく、前庭、ホワイエ等の活用についても積極的にPRを行い、利用者確保に努めているため。

## II サービスの質の評価（25点）

1 利用者満足度	利用者へのサービスの質を維持・向上させるための提案は具体化されているか 利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか	B	資料確認 自主事業の際は、アンケートを配布、集計され、利用者の回答内容は概ね良好であった。
2 維持管理業務	日常清掃業務や衛生管理、備品などの設備の維持管理は適正に行われ、良好な状態で施設の利用が行われているか	A	現地確認・資料確認 花壇やプランターを設置し、美観の確保に努めたため。
3 運営業務	事業運営について、サービス水準の向上のための創意工夫が見られるか。 利用許可などの利用者への接客・対応は適切であるか	B	現地確認・資料確認 利用者に対する対応は適切に行われている。
4 自主事業	実施された事業内容は、施設の設定目的に沿い、サービス水準の向上に寄与する質の高いものであるか	A	現地確認・資料確認 事業内容の充実により、多くの事業で昨年より多くの参加者があったため。
5 施設の効用	施設の効用を最大限に発揮し、設置目的の達成に資することができる管理運営内容であったか	A	現地確認 ホールだけでなくホワイエ、前庭等で多様な事業を行い、施設の利用促進に努めているため。

## III サービスの安定性の評価（15点）

1 事業収支	指定管理業務の事業収支は妥当であるか <b>補足資料※2</b>	B	資料確認 妥当である
2 経営状況	指定管理業務の経営状況分析指標の結果は妥当であるか <b>補足資料※3</b>	B	資料確認 妥当である。
3 団体等の経営状況（年度ごと）	団体の経営状況分析指標の結果は妥当であるか <b>補足資料※4</b>	B	資料確認 妥当である

<b>【総評（所管課評価）】</b> 前庭やホワイエの単独利用を含めた施設の利用促進に努め、利用件数及び利用者数が増加したことは評価できる。また、小規模な修繕を職員で迅速に行うなど施設の維持管理も適切に行われている。	<b>合計点</b> (74) 点 / (100) 点 $\times 100 = (74)$ <b>平均点</b> (3.7) 点
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------

※施設の性格や設置目的により、評価項目は追加、変更できる。

※評価区分 A（優良）＝協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。（5点）

B（良好）＝協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。（3点）

C（課題含）＝協定書等の基準を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。（1点）

D（要改善）＝協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。（0点）

※特記事項欄は評価を行った確認方法（例：立入調査、台帳確認、資料等確認）と当該評価を行った理由を記載する。

※総評欄は、事業計画書等との整合性を検証し、評価、業務の改善方策等を記入する。

### 【補足資料】

#### ※1 利用状況

項目	本年度〔平成27年4～9（4～3）月〕 A	前年度〔平成26年4～9（4～3）月〕 B	対比 A-B、A/B		対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
開館日数	360	359	1	100.3%	
施設利用者数	129,579	107,613	21,966	120.4%	貸館利用者の増
施設稼働率	100%	100%	0	100%	
事業開催数	20	21	△1	95.2%	

#### ※2 事業収支

##### (1) 収入

項目	本年度〔平成27年4～9（4～3）月〕 A	前年度〔平成26年4～9（4～3）月〕 B	対比 A-B、A/B		対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
利用料収入	17,200,320	14,498,547	2,701,773	118.6%	
指定管理料	57,841,000	55,482,000	2,359,000	104.3%	
事業収入	1,780,250	3,528,400	△1,748,150	50.5%	入場料収入の減
補助金及び助成金	0	0	0	-	
その他	255,447	135,509	119,938	188.5%	チケット販売手数料の増
合計	77,077,017	73,644,456	3,432,561	104.7%	

##### (2) 支出

項目	本年度〔平成27年4～9（4～3）月〕 A	前年度〔平成26年4～9（4～3）月〕 B	対比 A-B、A/B		対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
人件費	23,845,924	22,947,603	898,321	103.9%	
委託料	21,523,320	20,565,270	958,050	104.7%	
施設費	17,276,795	18,004,736	727,941	96%	
事業費	1,954,235	5,457,660	△3,503,425	35.8%	事業開催経費の減
合計	64,600,274	66,975,269	△2,374,995	96.5%	

#### ※3 経営状況分析指標

項目	本年度〔平成27年4～9（4～3）月〕 A	前年度〔平成26年4～9（4～3）月〕 B	対比 A-B、A/B		備考
①事業収支	12,476,743	6,669,187	5,807,556	187.1%	利用料収入等の増
②利用料金比率	22.32%	19.69%	2.63%	113.4%	

③人件費比率	36.91%	34.26%	2.65%	107.7%	
④外部委託費比率	33.32%	30.71%	2.61%	108.5%	
⑤利用者当たり管理コスト	499	622	△123	80.2%	
⑥利用者当たり自治体負担コスト	446	516	△70	86.4%	

①事業収支：(収入－支出)

事業全体が黒字で施設の管理運営ができていようかどうか確認する。赤字の場合は管理継続性の面での課題を解決し、黒字化のための方策を検討する。

②利用料金比率：(利用料金収入/収入)

収入に占める利用料金の割合。指定管理者の収入源がどこにあり、それが安定したものであるかを確認する。

③人件費比率：(人件費/支出)

支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が減らされすぎているか、逆に費用がかかりすぎているかを確認する。

④外部委託比率：(外部委託費合計/支出)

支出に占める外部委託費の割合。外部委託に過度にシフトしていないかを確認する。

⑤利用者当たり管理コスト：(支出/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

⑥利用者当たり自治体負担コスト：(指定管理料/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる自治体の費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

※4 団体等の経営状況(年度毎下期に実施し、上期では行いません。)

項目	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	備考
①自己資本比率	61.8	63.1	54.9	44.1	57.7	
②流動比率	273.9	288.1	230.7	182.1	304.5	
③固定長期適合率	10.1	11.5	14.2	15.5	15.3	
④総資産経常利益率	1.3	-1.5	-6.4	-1.8	-6.5	
評価	(以上の指標を参考に評価する。)					

※貸借対照表と損益計算書を基に計算。太枠内に今年度の数値を記載し、左側に過去4年分を記載。

①自己資本比率

総資産(資産合計)に占める自己資本(純資産合計)の割合を示した指標。どれだけ借金に頼らず経営をしているかを示す。比率が高いほど借金(負債合計)に頼る割合が低く、経営が安定していることを示す。一般的には、70%以上なら理想企業、40%以上なら倒産しにくいとされている。

$$\text{自己資本比率}(\%) = \text{自己資本} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】} 800 \div 2,000 \times 100 = 40.0\%$$

【公益法人会計の場合：正味財産計÷資産計×100】

②流動比率

団体の短期的な支払い能力を示す指標。1年以内に現金化できる試算を「流動資産」、1年以内に支払いを要する負債を「流動負債」と言い、「すぐに準備できるお金」と「すぐに返さないといけないお金」のバランスを比較する。流動資産(すぐに準備できるお金)の方が多いほど、支払い能力が高いことを示す。100%以上であれば問題ない。100%未満であれば資金繰りが苦しいとされる。

$$\text{流動比率}(\%) = \text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100 \quad \text{【例】} 1,100 \div 700 \times 100 = 157.1\%$$

③固定長期適合率

固定資産をどの程度、自己資本(純資産合計)と固定負債で賄っているかを示す指標。土地や建物など、この先1年以上換金できない、または換金しない固定資産を返済義務のない自前の資金である自己資本(純資産合計)と長期で調達したお金(固定負債)

でどれだけ賸るかを見る。100%未満であれば問題ないが、100%以上の場合は固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、資金繰りが苦しいと考えられるとされる。

**固定長期適合率(%) = 固定資産 ÷ (固定負債 + 自己資本) × 100** 【例】  $900 \div (500 + 800) \times 100 = 69.2\%$

〔公益法人会計の場合：固定資産 ÷ (固定負債 + 正味財産計) × 100〕

#### ④総資本経常利益率

団体の総合的な収益力を示す指標。団体の総資産（資産合計）に対して、どれだけの経常利益を稼ぎ出しているかを示す。比率が高いほど資本を効率的に運用し、収益を上げている。

**総資本経常利益率 = 経常利益 ÷ 総資産 × 100** 【例】  $200 \div 2,000 \times 100 = 10.0\%$

〔公益法人会計の場合：正味財産増減額 ÷ 総資本 × 100〕

#### ■貸借対照表（例）

【資産の部】	【負債の部】
流動資産	流動負債
現金及び預金 400	買掛金 400
受取手形 500	短期借入金 300
有価証券 200	流動負債合計 700
流動資産合計 1,100	固定負債
固定資産	社債 300
建物及び構築物 200	退職給付引当金 200
土地 500	固定負債合計 500
投資有価証券 200	負債合計 1,200
固定資産合計 900	【純資産の部】
	資本金 600
	利益剰余金 200
	純資産合計 800
資産合計 2,000	負債純資産合計 2,000

#### ■損益計算書（例）

売上高	3,000
売上原価	1,200
売上総利益	1,800
販売費及び一般管理費	1,200
広告	700
人件費	500
営業利益	600
営業外収益	200
受取利息	200
その他	0
営業外費用	600
支払利息	200
社債利息	0
経常利益	200
特別利益	100
外国為替	100
特別損失	50
固定資産売却損	50
税引前当期純利益	250
法人税・住民税等	50
当期純利益	200

#### 5 利用者からの苦情の内容とそれに対する市・指定管理者の対応や市から指定管理者への指導状況

なし

#### 6 利用者アンケートの結果

自主事業について概ね事業を支持する良好な回答であった。

駐車場の広さに関する意見があった。